この資料は2026年6月26日時点の情報を基に作成しています

研究成果等の
即時オープンアクセス義務化への
対応について



大分大学附属図書館考案
OA加速化くん

東海国立大学機構
図書館オープンサイエンスチーム

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構

この資料では「研究成果等の即時オープンアクセス義務化」についてご説明します。 この政策は，対象となる競争的資金を申請されるすべての方に影響します。 研究を始める前から考えておくべき重要な事項も含まれています。

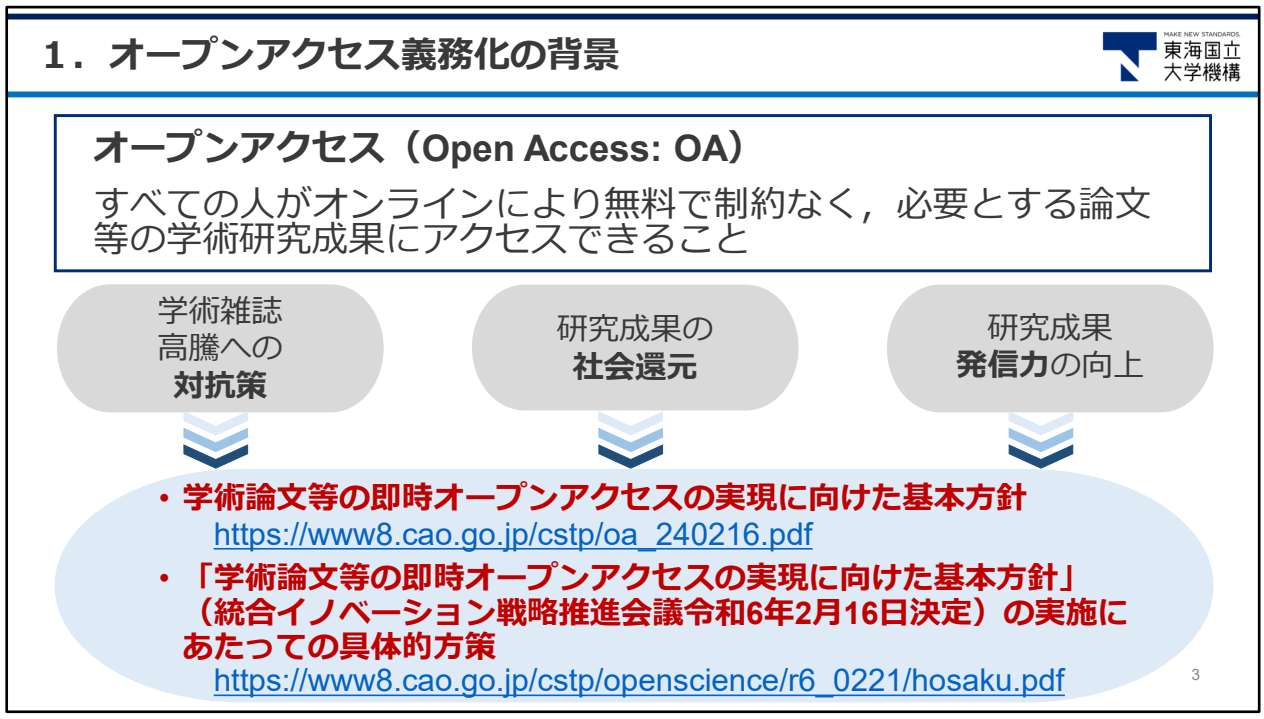
目次

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構

1. オープンアクセス義務化の背景
2. 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
3. オープンアクセスにする方法
4. 即時オープンアクセス化が困難な場合の対応

2

ご覧の4つのトピックについて，順にご説明していきます。



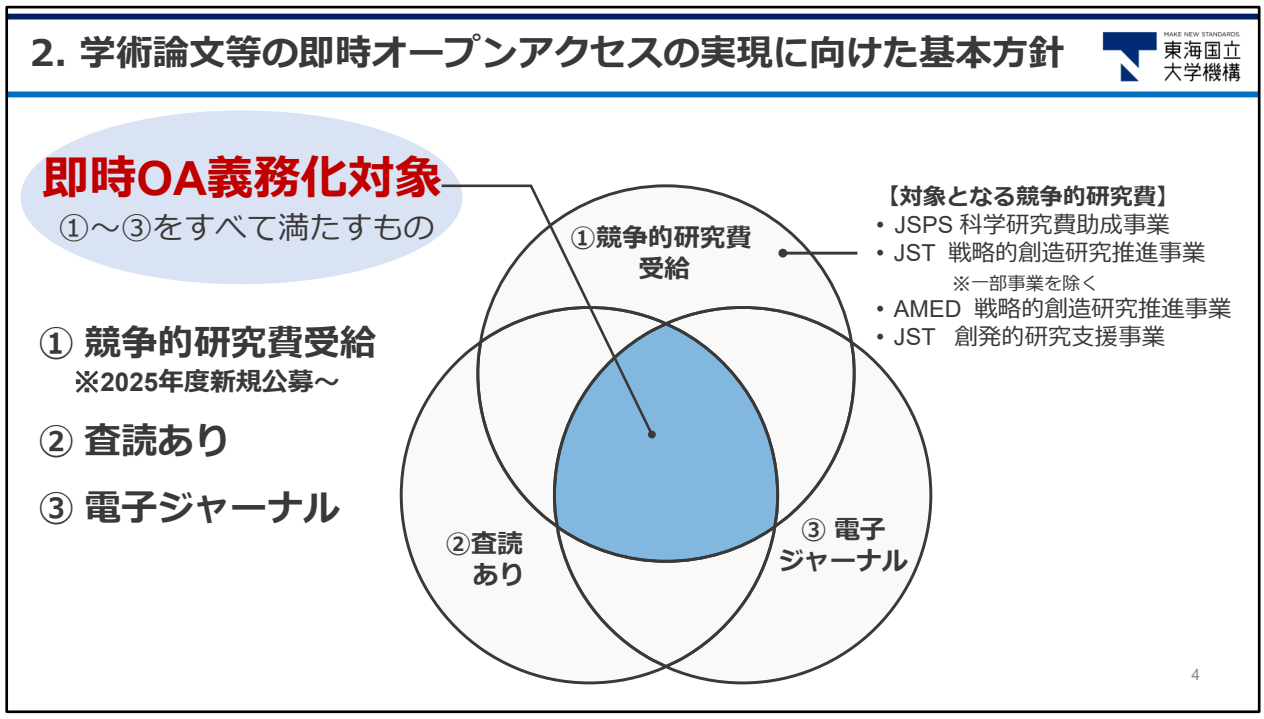
オープンアクセスとは，すべての人がオンラインにより無料で制約なく，必要とする論文等の学術研究成果にアクセスできること　をいいます。

主に学術雑誌の高騰（シリアルズ・クライシス）への対抗策や，公的資金が投入された研究成果の社会への還元の必要性，といった理由により，2000年前後からその動きが高まってきました。

また，近年，米英欧州では先んじて公的資金の助成を受けた研究成果のOA義務化が開始されており，それに遅れを取らずに我が国の研究成果発信力の向上を目指していくことも見据え，日本もいよいよ政策としてオープンアクセス義務化が始まることになりました。

それをどのようにして進めていくのかを示したのが，2024年2月に公表された「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」と，同じく2024年2月に公表，10月に改正された「「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策」です。

名前が長いので，以下「基本方針」と「具体的方策」と言っていきますが，これらにおいて，研究者の皆様が何をどうすることが求められているのか，要点をご説明していきます。

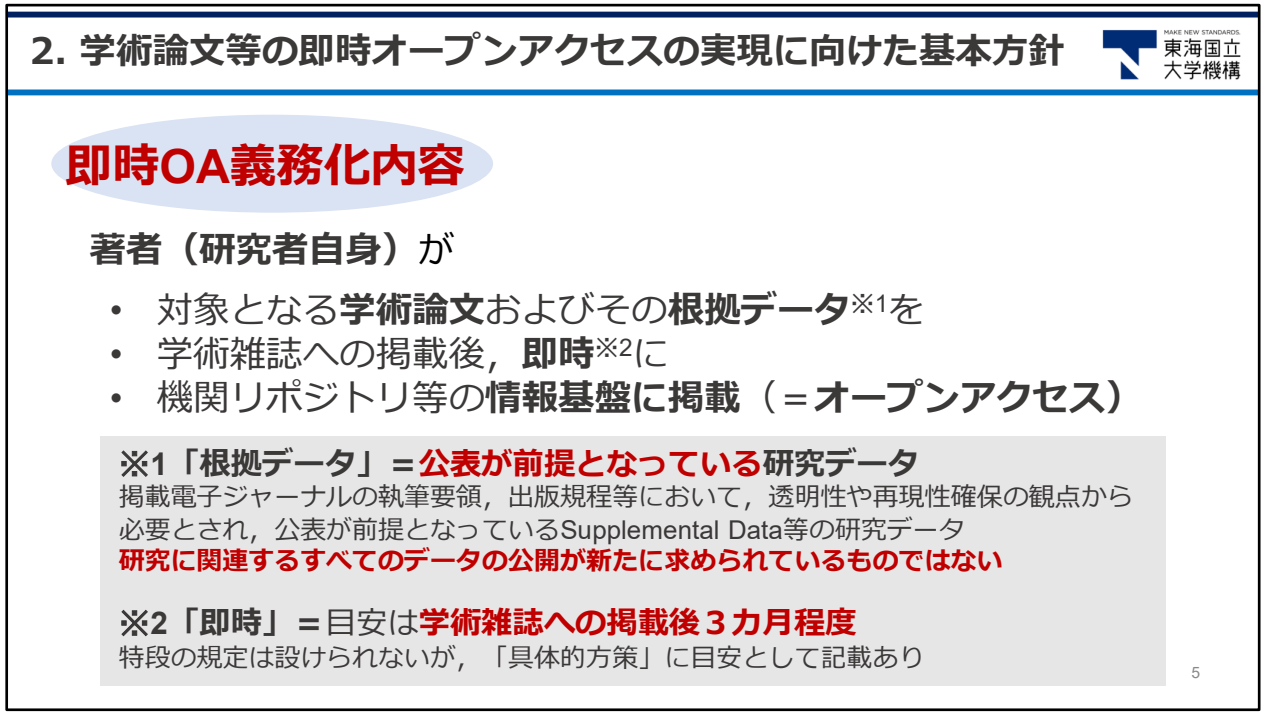


まず，即時OA義務化の対象となる研究成果についてです。

1つ目は，2025年度以降に新規に公募される競争的研究費を受給して実施された研究成果であること。対象となる競争的研究費は4つ定められています。

そして，査読があり，電子ジャーナル，つまり，電子版として学術雑誌に掲載されていること。

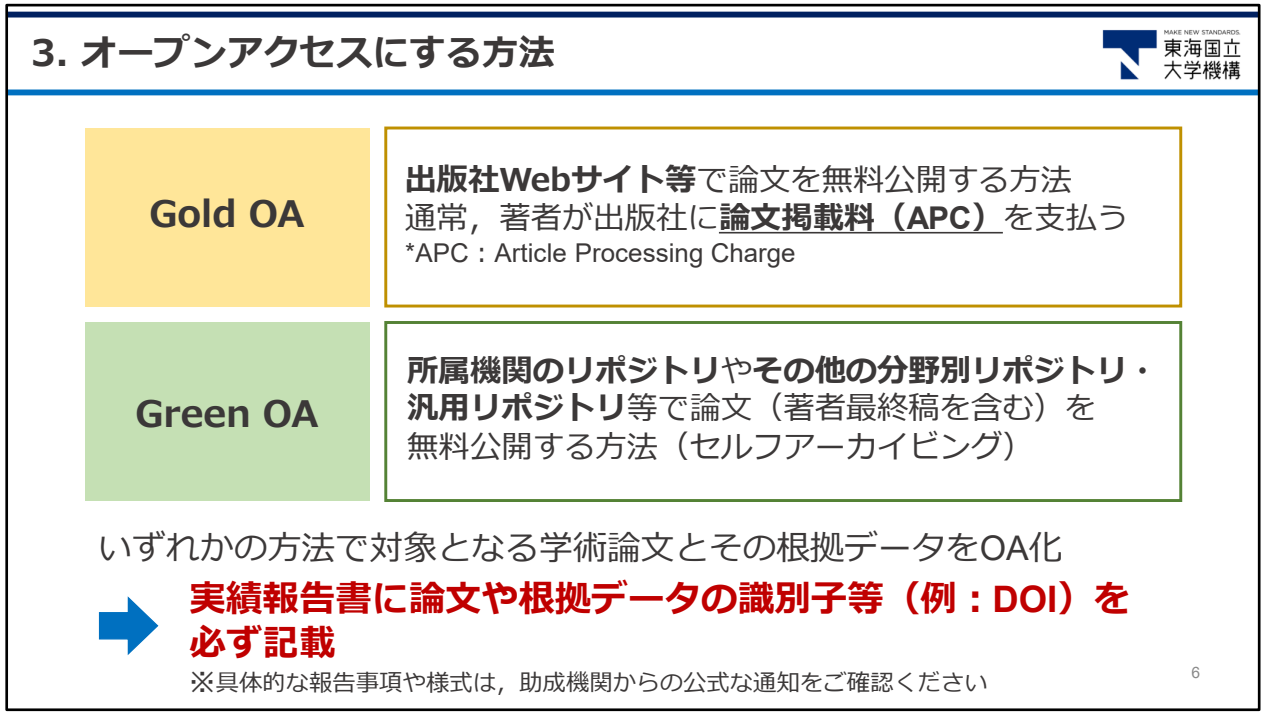
この3つの条件をすべて満たした学術論文およびその根拠データが対象となります。研究分野によっては，当てはまらないものの方が少ないかもしれません。



即時OA義務化対象となる学術論文およびその根拠データについては，著者自身が，学術雑誌への掲載後，即時に，機関リポジトリ等の情報基盤に掲載してオープンアクセスにすることが義務化されます。

「根拠データ」は，掲載電子ジャーナルの執筆要領，出版規程等において，透明性や再現性確保の観点から必要とされ，公表が前提となっているSupplemental Data等の研究データを指し，研究に関連するすべてのデータの公開が新たに求められているものではないので，その点は誤解のないようにお願いします。

また，「即時」の定義について，学術雑誌への掲載後，「機関リポジトリ等の情報基盤」へ掲載するための手続きに要する期間については，所属する機関の体制等によって異なるということで，特段の規定は設けられませんが，「具体的方策」にて，目安として学術雑誌への掲載後３か月程度が望ましいと記載されています。



「機関リポジトリ等の情報基盤に掲載して」オープンアクセスにする，ということですが，その方法としては，大別すると2つの方法があります。

ひとつは，ゴールドOAといって，著者が主に出版社のWebサイトで論文を無料公開する方法です。

もうひとつは，グリーンOAといって，所属機関のリポジトリやその他の分野別リポジトリ等で，論文を無料公開する方法です。この場合の「論文」は、アクセプト後に著者の手元に残る著者最終稿の公開を含みます。

いずれかの方法を研究者自身で選択してオープンアクセスにしたのち，実績報告書に論文や根拠データのDOI等の識別子を必ず記載してください。具体的な報告事項や様式は，助成機関からの公式な通知をご確認ください。

3. オープンアクセスにする方法：Gold OA

MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構

Gold OA：ジャーナルでの論文出版によるOA

●論文が雑誌に掲載されると同時にOA化

●**APC（Article Processing Charge）が必要**

・研究費から支出する必要があるため，要予算確保



転換契約（Read & Publish契約）・ハイインパクトジャーナル投稿支援といったAPCを軽減するOA投稿支援あり！

※所属機関によって受けられる支援制度・内容が異なります

- 岐阜大学所属者 https://www.lib.gifu-u.ac.jp/academic/apc.html
- 名古屋大学所属者 https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/apc.html

7

それぞれの方法を少し詳しく説明します。

Gold OAは，論文等が雑誌に掲載されると同時に誰でも無料で読めるようになる点が大きなメリットです。

ただし，Gold OA出版のためには，APCと呼ばれる掲載料が必要な場合が多く，時にその金額が大変高額な場合があります。APCは研究費から支出いただくことになるため，予算をご自身であらかじめご用意いただく必要がありますが，東海国立大学機構では，APCの著者負担を軽減する支援制度があります。
著者が個別にAPCを払うのではなく，大学が購読料に一定本数分のOA論文出版費用を含めて電子ジャーナルを契約する転換契約，ハイインパクトジャーナルのAPC支援がありますが，所属機関によって受けられる支援制度・内容が異なりますので，ご自身の所属機関の詳細ページをご確認ください。

3. オープンアクセスにする方法：Green OA

MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構

Green OA：セルフアーカイビング

●著者の**費用負担なし**

●機関リポジトリ登録方法

機関リポジトリを
ぜひご活用ください！



➢**岐阜大学機関リポジトリ**
TOP: https://gifu-u.repo.nii.ac.jp/
詳細: https://www.lib.gifu-u.ac.jp/academic/repozasshi.html

➢**名古屋大学学術機関リポジトリ**
TOP: https://nagoya.repo.nii.ac.jp
詳細: https://nagoya.repo.nii.ac.jp/page/33

●多くは**著者最終稿・エンバーゴ（公開猶予期間）あり**の公開

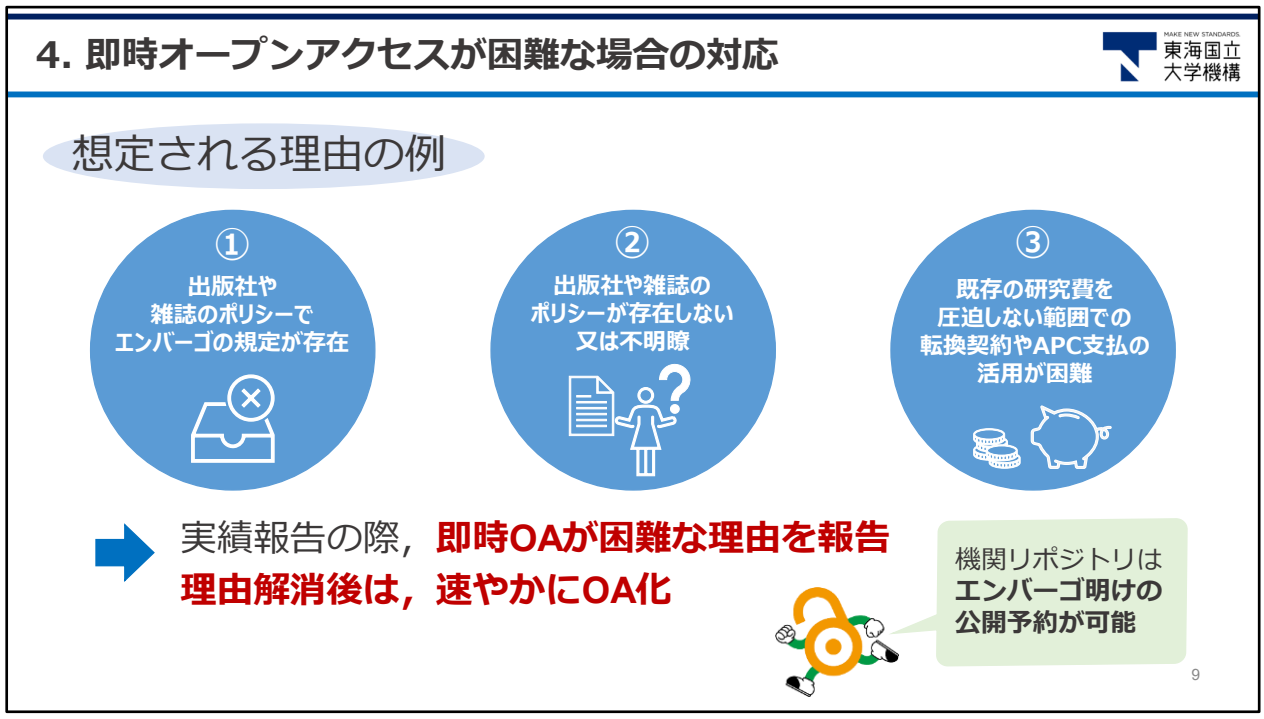
8

次に，Green OAです。

Green OAは基本的に，無料で行うことができ，OAにするための費用を研究費で確保する必要がありません。

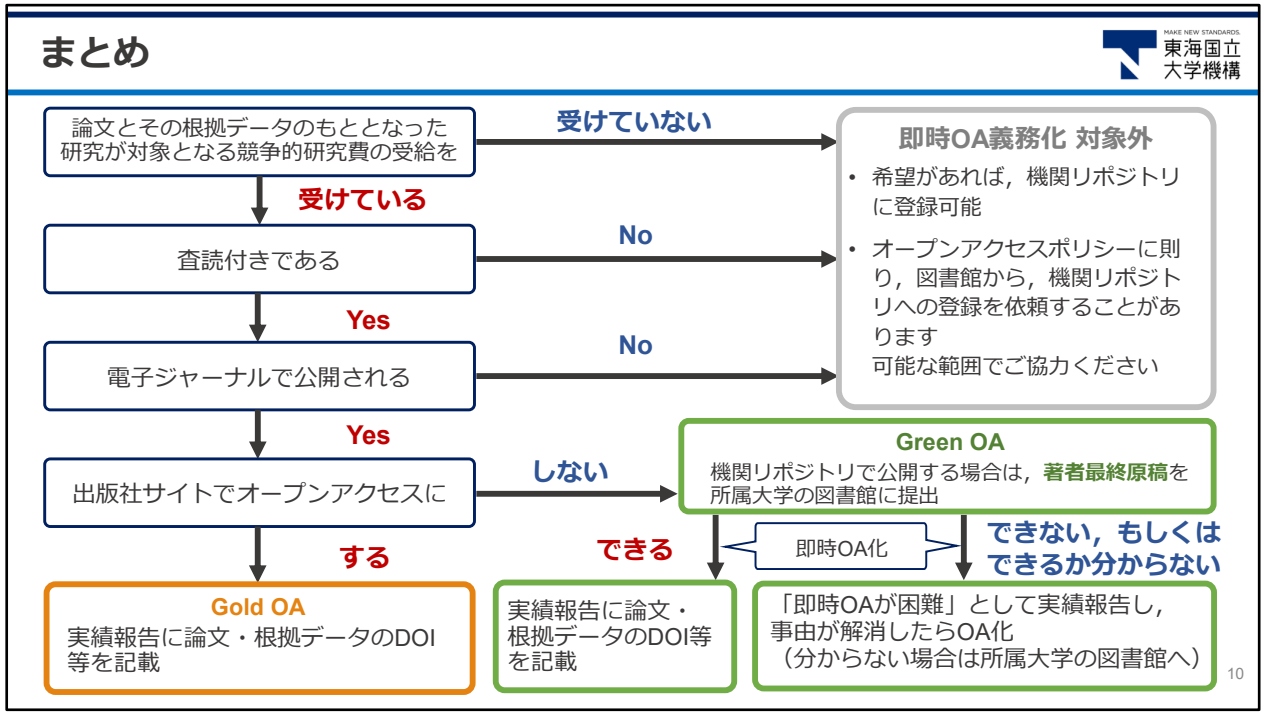
なかでも，機関リポジトリは，両大学それぞれに設置され，大学が責任をもって運営していますので，所属機関リポジトリの詳細ページを参照の上，ぜひご活用をご検討ください。
利用される場合は，実績報告書提出の際に困らないように，論文掲載の都度，お早めに，リポジトリ登録依頼をされることをおすすめします。

Green OAは，出版社のポリシーに従って行う必要があります。
公開できる論文のバージョンは，著者最終稿である場合が多く，さらに多くの場合，エンバーゴと呼ばれる公開猶予期間も設けられています。それらの事情は，「具体的方策」で考慮されていますので、次に説明します。



「具体的方策」では，即時オープンアクセスが困難な場合の理由として，
①出版社や雑誌のポリシーでエンバーゴの規定が存在する場合
②出版社や雑誌のポリシーが存在しない又は不明瞭
③既存の研究費を圧迫しない範囲での転換契約やAPC支払の活用が困難
この3つが想定されています。
「具体的方策」では，実績報告書において，これらの主な理由を選択式であらかじめ提示するようになる予定，とアナウンスされていますので，もし該当する場合は，即時オープンアクセスが困難な理由を選んで報告してください。

そして，その理由が解消された場合は，速やかにオープンアクセスにする必要があります。
①のときには，機関リポジトリにあらかじめ著者最終稿を登録しておき，エンバーゴ明けに自動的に公開されるように設定できます。
②のときは，図書館に問い合わせいただければお調べします。
また，③のときはリポジトリ登録であれば経費はかかりません。
実績報告では一旦「即時OAが困難」として報告いただくことになりますが，リポジトリや図書館は確実に即時OA義務化を果たすお手伝いができますので，ご検討ください。



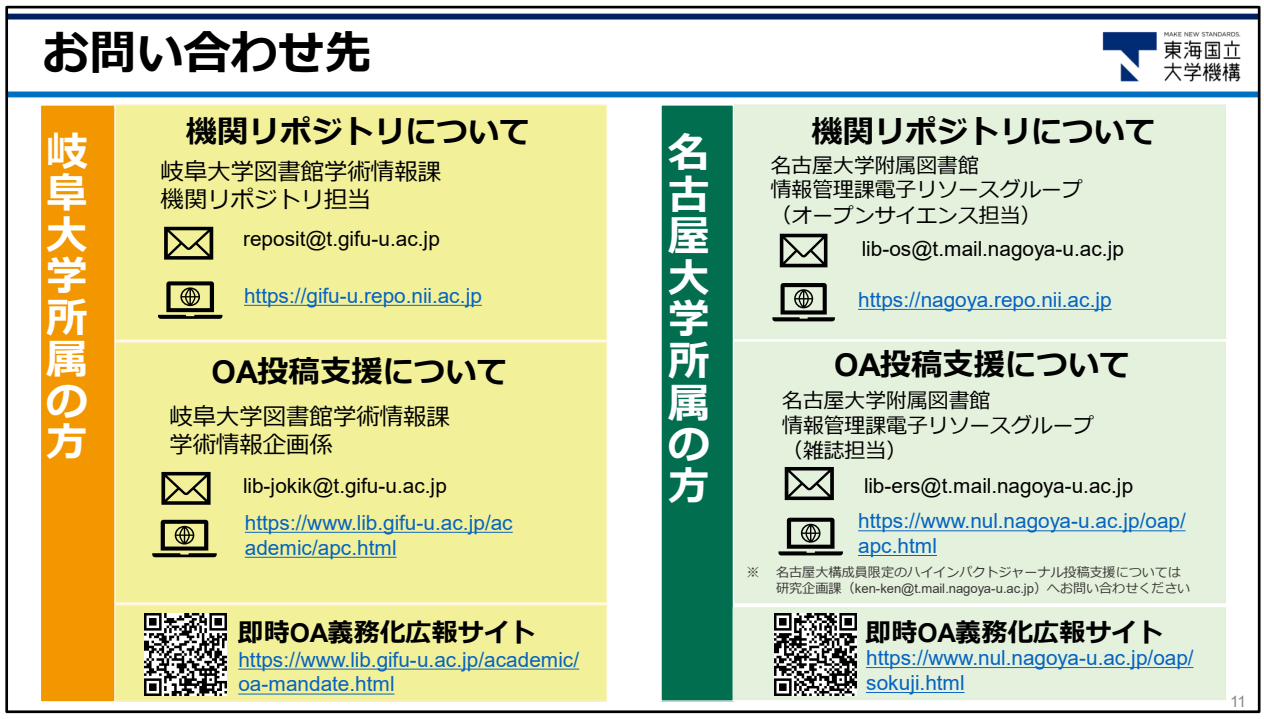
まとめとして，ここまでお話してきた内容をチャートで表しました。

研究の進捗等によって，実際に対応いただく時期は研究プロジェクトごとに異なるかと存じます。

しかし，2025年度以降に新たに公募される，科研費ほか，対象とされる競争的資金を得て行った研究成果は，査読付きの電子ジャーナルで論文および根拠データを発表する場合は，Gold OAまたはGreen OAでそれを即時にオープンアクセスにし，実績報告でDOI等の報告を行う必要があります。

また，なんらかの事情により即時にオープンアクセスにできない場合は，その理由とともに実績報告をすることが義務化されています。

この点を覚えておいてください。



ご説明は以上となります。
ご不明な点等ございましたら，ご所属大学の各担当者宛にお問い合わせください。